

2023

6月

正信偈草譜(そうふ)のお勤め お参りの作法、焼香の作法

正信偈のお勤め

正信偈は、『顕浄土真実教行証文類』という、親鸞聖人の主著にでてきます。阿弥陀如来のお徳を、経典や七高僧のお言葉をもとにほめたたえてくださっています。そして蓮如上人(本願寺第八代目)が、正信偈と和讃をあわせたものを刊行したことにより、僧俗一体のお勤めのスタイルが確立していきました。それによりご本山では、朝夕のお勤めに用いられています。

- 1、鑿(きん)とは、お勤めの始まりや終わりにつかれる打物。○の数が、鑿を打つ回数です。
- 2、正信偈には、草譜(そうふ)や行譜(ぎょうふ)という節の違うお勤めの仕方があります。
- 3、この黒い点は、調声人(ちょうしょうにん)のみが唱え、次の行、同音より全員で唱和します。
- 4、引(ひく)は、二拍で唱える。基本的には、漢字1字で一拍。
- 5、この印は、博士(はかせ)といいます。音の変化を表します。「王仏所」の部分、音が下がることを示しています。「在世・・・」に音階を示しました。
- 6、この線は、火急(かきゅう)といい、唱え方が普通の速さと異なります。この箇所の場合は、1.5拍と0.5拍で「希」の方が長くなります。

7 出音ハ調ソ

善導 独明 仏正 意
 矜哀 定散 与逆 惡
 光明 名号 顕因 縁
 開入 本願 大智 海

至安 養界 証妙 果
 一生 造惡 値弘 誓
 像末 法滅 同悲 引
 三木 三信 誨慇 懃

7,善導から音の高さが変わります。(高くなる)

8,下ル(サゲル)の記号は、音が下がることを示します。ここでは「ソ」から「レ」に下がります。次の行からまた元に戻ります。

10 唯 可 信 斯 高 僧 説

道 俗 時 衆 共 同 心

拯 濟 無 辺 極 濁 惡

弘 經 大 士 宗 師 等

必 以 信 心 為 能 入

速 入 寂 靜 無 為 樂

決 以 疑 情 為 所 止

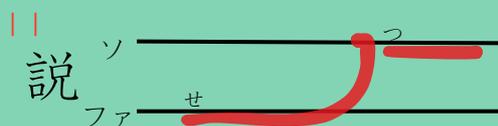
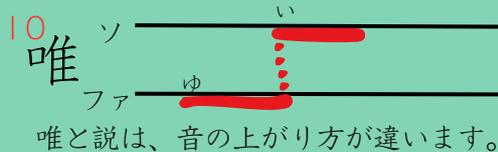
還 來 生 死 輪 轉 家

11 説

9.「ソ」から「レ」に下がり「ソ」の音に戻ります。その際は、音の移りをなめらかにお唱えします。

10.音が「ファ」から「ソ」に上がります。

11.カナ上げ(あげ)という節です。なめらかに音を上げていき最後に「つ」をつける。



お参りの作法

お寺にお参りの際は、まず山門を通るときに、一礼します。そして、本堂に入室されたら、一礼します。その後、お焼香して、合掌礼拝します。帰られる際も入ってくる時と同じようにします。

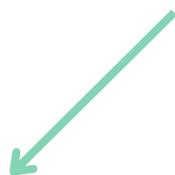
お焼香の作法 浄土真宗本願寺派の作法です。宗派によって異なります



1, 焼香台の手前で、ご本尊に向かって一礼します。



2, お香をつまみとり、額に押し頂かずにそのまま香炉に入れ、お焼香します。



3, 合掌して、お念仏を声に出して、礼拝します。



4, 1歩下がり、ご本尊に向かって一礼して、自席へと戻る。